

令和6年度第2回日高市環境審議会議事録

日時	令和7年3月4日(火) 午後1時30分から2時30分まで
場所	日高市役所 3階 301会議室
公開・非公開	公開
非公開理由	
出席者	谷ヶ崎市長、高崎委員、福井委員、小林委員、秋葉委員、青木委員、大林委員、中村委員、石野委員、遠藤委員、大澤委員(会長)、大塚委員、阿部委員、田中委員
欠席者	守谷委員
事務局	渋谷市民生活部長、関口環境課長、 駒野生活環境担当主幹、廣地生活環境担当主査、大河原生活環境担当主査 内沼廃棄物対策担当主幹、安藤廃棄物対策担当主査
説明員	事務局
傍聴者	2名
担当部署	市民生活部環境課
議事	報告事項 (1) 令和6年度 環境課事業報告 (2) 令和7年度 環境課事業計画
会議資料	資料1 令和6年度 環境課事業報告 資料2 令和7年度 環境課事業計画 資料3 小中学生版 日高市カーボンニュートラルに向けたロードマップ 資料4 第2次日高市環境基本計画実施状況等報告書(令和5年度対象)
会議内容等	<p>【開会】 事務局：(出席人数13名。傍聴者2名。日高市環境審議会条例第6条第2項の規定により審議会が成立することを報告した。)</p> <p>【あいさつ】 市長：(あいさつ) 会長：(あいさつ) ～市長退席～</p> <p>【議事】 報告事項 (1) 「令和6年度 環境課事業報告について」 〔要旨〕 事務局から資料1のとおり報告した。</p>

補足として、環境基本計画を今年度のアンケートを基に来年度見直していくこと、粗大ごみ等の戸別収集開始、廃食油リサイクルに関する協定の締結、株式会社マーケットエンタープライズ「おいくら」との協定締結について報告した。

〔質疑等〕

委員：「廃食油のリサイクルに関する連携協定」を締結した三和エナジー株式会社と吉岡製油有限会社は、どちらも入間市の企業か。

事務局：三和エナジー株式会社が狭山市、吉岡製油有限会社が入間市の企業である。

委員：廃油の利用については様々な取組がニュースでも取り上げられているが、今回の協定締結による事業は従来の廃油利用との違いはあるか。

事務局：大きな違いはない。今回はバイオ燃料が5%含まれた燃料（B5軽油）を作る。一般に使用できる軽油である。

委員：降下ばいじん量、空間放射線量の測定結果について、近年の数値に従来の変化はあるか。また、放射線量は地上どの程度の高さで測定しているか。

事務局：大きな変化はない。放射線量は、地上50センチメートルで測定している。

委員：広島ではPFASが検出されたというニュースがあったが、日高市では水道水の検査をしているか。

事務局：1年に1回実施しており、暫定目標値を下回っている。

（2）「令和7年度 環境課事業計画について」

〔要旨〕

事務局から資料2のとおり報告した。

補足として、ふるさとの森について来年度、物見山を第3号地として指定する事務を進めていく旨を報告した。

〔質疑等〕

委員：ふるさとの森の新たな指定について、どの程度の面積を考えているか。

事務局：指定の際には、条例で1ヘクタール（1万平方メートル）以上のものとする事となっている。

委員：そうなると地権者は複数人か。

事務局：お見込みのとおりであり、今後該当する地権者に意向調査を行う予定である。

委員：巾着田に桜を植えているが、品種はソメイヨシノか。

事務局：そのとおりである。

委員：ソメイヨシノは50年くらいで枯れてしまう品種だが、他の品種は検

討したか。

事務局：総合的に検討の上、観光地である巾着田に最も適したソメイヨシノを選択した。今後、現在ある古木の整理等を含め適切に管理していく。

委員：子ども向けの脱炭素ロードマップを活用し、環境教育を実施していくのはとてもいいことだ。令和7年度以降、どの程度の規模で実施していく予定か。

事務局：市内の小学校及び義務教育学校の全校（6校）で実施する予定である。なお、今年度は試行的に4校で実施した。また、子ども向け脱炭素ロードマップは、小学4年生以上を対象に作成したが、大人に対しても活用できる内容であると考えている。

委員：低学年に対して使用する際には、くりっかー、くりっぴーを対話させるなどして、より子ども

たちがひきつけられるようにするのもいい。

委員：「ひだカーボンニュートラル」というタイトルがいい。

委員：これを完成形とするのではなく、様々な意見を取り入れて、進化させていってほしい。

事務局：承知した。

委員：巾着田の入口にある丸太の看板を、鮮やかなくりっかー、くりっぴーが見られるように一新していただきたい。

事務局：検討する。

【その他】

- なし

本会議の議事は、事務局の記載したものです。その内容が正確であることを証するため署名します。

令和7年3月12日

会 長 大澤 尚